

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：植物防疫費

事業名 ジャンボタニシ等被害対策推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政課 農産園芸課 ぎふ清流GAP推進係、米麦大豆係 電話番号：058-272-1111(内2868、2864)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,010 千円 (前年度予算額：8,717 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,717	6,960	0	0	0	0	0	0	1,757
要求額	8,010	6,253	0	0	0	0	0	0	1,757
決定額	8,010	6,253	0	0	0	0	0	0	1,757

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・近年の暖冬の影響で越冬したスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による水稻への食害が、岐阜・西濃圏域を中心に深刻である。令和3年までに県内27市町で生息が確認されており、中濃・東濃圏域へも拡がりつつある。また、令和2年度は、夏期に高温で推移したことから、22年ぶりにトビイロウンカが多発生し、収穫直前の水稻が枯死する被害が出た。
- ・生産性と持続可能性を両立した米生産体制づくりには、水稻の病虫害防除の徹底を図るため、発生状況や被害状況を迅速に把握するとともに、効果的な対策を検討する必要がある。
- ・特にジャンボタニシについては、まん延防止に向けた対策として、地域が一体となって耕種的防除（浅水管理、冬季の耕起）と化学的防除（農薬散布）と総合的に取り組むことが重要であり、関係機関が連携して対策を検討・推進する必要がある。

(2) 事業内容

- ① ジャンボタニシ等難防除病虫害被害対策推進事業費（1,410千円）
- ・ジャンボタニシの地域の実態に即した耕種的・化学的防除による総合的な防除対策の検討（県関係機関で構成する被害対策チームの設置、被害対策アドバイザー（学識経験者）の招聘等）
 - ・ジャンボタニシ被害軽減対策の検討に係る大学との共同研究
 - ・被害対策の啓発（チラシの作成・配布、セミナーの開催）
 - ・国内での侵入を警戒すべき病虫害（ミカンコミバエ種群、チチュウカイミバエ等）の発生状況の調査。

②ジャンボタニシ被害対策推進事業費補助金（1,600千円）

- ・耕種的・化学的防除を総合的に取組もうとする地区を公募し、重点地区として設定。
- ・市町村やJAが主となり、水田ほ場内における広域かつ総合的な対策の実践及び効果確認を行う取組を支援。

[補助率] 1/2以内（上限800千円）

[事業実施主体] 市町村、農協

③侵入病虫害緊急防除対策補助金（5,000千円）

- ・侵入を防止すべき病虫害が発生した場合の防除費用に対して必要な経費を助成。

[補助率] 10/10以内

[事業実施主体] 市町村、農協等

（3）県負担・補助率の考え方

- ・水稲作における被害軽減に向けた取組であり、県負担は妥当。
- ・市町村又は農協が、地域の農業者等と連携して取組むことから、事業主体及び補助率は妥当。

・①の一部及び②に、国の地方創生交付金（補助率：1/2以内）を充当。

・①の一部及び③に、国の消費・安全対策交付金（補助率：10/10以内）を充当。

（4）類似事業の有無

生態系保全支援事業費補助金（農村振興課）（森林環境税を活用）

[事業主体] 市町村／ [補助率] 1/2（上限1,000千円）

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	82	講師謝金
旅費	129	費用弁償、業務旅費
需用費	534	消耗品費、印刷製本費
委託料	500	大学との共同研究、被害対策マニュアルの作成
補助金	6,600	病虫害防除対策補助金（市町村、JA）
その他	165	役務費（通信費）、使用料（講演会会場料）、補償費
合計	8,010	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

- ・「ぎふ農業・農村基本計画」

（2）安心で身近な「ぎふの食」づくり

③ 水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開

- ・ジャンボタニシなど難防除害虫への対策強化

（2）国・他県の状況

- ・農林水産省策定の「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた具体的取組みにおいて、本事業の主旨に沿った「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」が位置づけ。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

重点地区において、ジャンボタニシの被害状況を把握し、講じた対策により被害が減少したことを確認する。

また、海外・県外で発生している病害虫の侵入警戒調査により、県内での発生を未然に防ぐ。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 目標	終期目標 (R4)	達成率
総合的な対策に取 組む地区	0	3	5	4	4	125%

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>○取組内容と成果を記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンボタニシ被害対策推進事業費補助金 3市町に交付 （重点地区を3地区設置した） ・岐阜大学と共同で、有効と思われる対策について検証を実施 ・県関係機関で対策チームを設置し、連携を図り啓発チラシを作成 ・病害虫防除所にて県内発生状況調査を実施、情報提供 ・各農林事務所にて水田内の対策を指導 ・侵入を警戒すべき病害虫（ミカンコミバエ群）の警戒調査及びウメ輪紋ウイルスの全国発生状況調査、感染範囲特定調査を実施した。
令和 3 年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>ジャンボタニシの生息域は年々拡大しており、効果的な対応策の検証・普及が必要である。また、国内未侵入病害虫のまん延防止のためには、早期の発見や状況の調査が必要である。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	<p>ジャンボタニシ被害対策について、令和2年度は3地区、翌3年度は5地区で総合的な対策に取り組んでおり、地域一体となった取組が広がっている。また、国内未侵入病害虫(ミカンコミバエ群)は確認されず、ウメ輪紋ウイルスは最小限の被害に留まっている。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 2	<p>ジャンボタニシ被害対策は、広域的な取組は県、地域での取組は市町村又はJAが担うことで効率化が図られている。また、侵入警戒調査等は、他業務と併せて効率的な実施に努めている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ジャンボタニシの被害対策について、地域の条件ごとに効果的な対応策を提示し、普及する必要がある。また、警戒すべき病害虫等への警戒調査及び効果的な防除方法について、引き続き調査が必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ・ジャンボタニシ被害対策は、令和2年度からの3年間の取組で得られた成果を活用し、令和4年度中に岐阜県版の対策マニュアルを作成する。 ・侵入警戒調査等は、国の方針を注視し、方向性を検討する。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>岐阜県生体系保全支援事業【農村振興課】</p>
<p>組み合わせる理由や期待する効果など</p>	<p>水路のジャンボタニシ除去と合わせて総合的に対策を講じることが可能となる。</p>